

2011年度

科目名	生命倫理学				
担当教員	西岡 秀爾				
配当	薬学2			コード	53024
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	【必修】 日本の風土で培われた独自の生命観・倫理観の探求				
目的と概要	生命倫理の問題は非常に多岐にわたるが、まず現状を概略的に通覧してみる。生命倫理は、歴史・文化と深い関わりがあり様々な考え方があり。その文化的な差異による多様な考え方を紹介する。特に日本人は、無意識にしろ仏教との関わりが深い。よって、歴史的・文化的にも異なる西洋の倫理観との比較検討により、日本という風土にあった倫理観を学びたい。受講者各自が生命に関わる職業人(薬剤師・薬学研究者)としての自覚を持ち確かな倫理観を身につけてもらいたい。				
成績評価法	筆記試験ならびに授業時のレポートの成績により評価する。 また、平常点を重視する。 (定期試験50点、レポート10点、平常点40点)				
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 テーマに即したビデオや新聞も適宜紹介する。				
参考書	生命倫理とは何か / 市野川容孝 編 / 平凡社 生命倫理学入門 / 今井道夫 著 / 産業図書 生命倫理と医療倫理 / 伏木信次 編 / 金芳堂 等 (適宜紹介する。)				
履修に当たっての注意・助言 / 準備学習	傍観するのではなく、受講生各自が問題意識を持って臨むこと。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標 (SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	生命倫理学(バイオエシックス)とは何か (歴史的背景、成立)	1.生命倫理学の歴史的背景と成立を概説できる。	独自	知識
			2.バイオエシックスの分野を概説できる。	独自	知識
			3.医療の担い手を守るべき倫理規範(ヒポクラテスの誓い、ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言など)を説明できる。	A(2)	知識
2	講義	生と死の定義(生命とは、生と死の境界線)	1.医学的、生物学的観点と文化的、社会的観点では、人の誕生ならびに人の死のとらえ方が異なることを説明できる。	A(1)	知識
			2.人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議することができる。	A(1)	態度
			3.科学的生命、日常的生命、宗教的生命の違いを説明できる。	独自	知識
3	講義	仏教の生命観(仏教生命観からみたいのち、四苦(生・老・病・死)、慈悲と縁起)	1.仏教的生命観を説明できる。	独自	知識
			2.東洋と西洋の生命観の違いを説明できる。	独自	知識
			3.チームワークの重要性を例示して説明できる(「縁起」の思想)。	A(3)	知識
			4.医療従事者としてふさわしい心構えを身につける(「慈悲」の思想)。	A(2)	態度
			5.生・老・病・死(四苦)は、自分の思いどおりにならないことを説明できる。	独自	知識

4	講義	死をめぐる生命倫理 ① 脳死 (蘇生限界点、脳死は人の死か)	1. 死の定義(三徴候死)を説明できる。	A(1)	知識
			2.「脳死」の状態とその(倫理的)問題を説明できる。	A(1)	知識
			3.「(全)脳死」と「植物状態」の違いを説明できる。	独自	知識
			4.「脳死は人の死か」を討議することができる。	独自	態度
5	講義	死をめぐる生命倫理 ② 臓器移植 (脳死判定、ドナーとレシピエント、臓器売買)	1.医療の進歩による臓器移植の変遷を概説できる。	A(1)	知識
			2.脳死と臓器移植の関係を説明できる。	A(1)	知識
			3.臓器移植の問題点(海外臓器移植、臓器売買、ドナー不足)を説明できる。	A(1)	知識
			4.臓器移植による拒絶反応の歴史を概説できる。	独自	知識
6	講義	死をめぐる生命倫理 ③ 安楽死・尊厳死 (積極的安楽死と消極的安楽死、尊厳死法、死ぬ権利)	1.安楽死と尊厳死の違いを説明できる。	A(1)	知識
			2.世界ならびに日本における尊厳死の歴史とその問題点を説明できる。	A(1)	知識
			3.QOLとSOLの違いを説明できる。	A(1)	知識
			4.患者の基本的な人権と自己決定権の興隆背景を説明し、それを尊重することができる。	A(2)	知識
			5.患者によって死をめぐる価値観の違いを討議し、尊重することができる。	A(3)	態度
7	講義	死をめぐる生命倫理 ④ ターミナルケア (末期医療、緩和ケア、ホスピス、ビハラー)	1.cureとcareの違いを説明できる。	独自	知識
			2.終末期ケアの問題点(過剰医療・延命治療)を説明できる。	A(1)	知識
			3.日本におけるホスピス運動の歴史と種類(ホスピス、ビハラー、緩和ケア病棟)について概説できる。	独自	知識
			4.終末期看護における言語的ならびに非言語的コミュニケーション方法を概説できる。	A(3)	知識
8	講義	出生をめぐる生命倫理① 生殖補助医療技術 (人工授精、体外受精、胚移植、生殖革命)	1.AIHとAIDの違いを説明できる。	A(1)	知識
			2.人工授精と体外受精の違いを概説し、その倫理的問題を説明できる。	A(1)	知識
			3.不妊治療のニーズとその対応について討議することができる。	A(2)	態度
9	講義	出生をめぐる生命倫理② 代理出産 (代理母、ベビービジネス)	1.サロゲートマザーとホストマザーの違いを説明できる。	A(1)	知識
			2.代理出産の社会的問題や倫理的問題について概説できる。	A(1)	知識

10	講義	出生をめぐる生命倫理③ 出生前診断 (遺伝子診断、着床前診断、胎児診断、優生思想、障害胎児)	1.出生前診断の概略とその問題点を説明できる。	A(1)	知識
			2.医療の進歩による遺伝子診断の変遷を概説できる。	A(1)	知識
			3.胎児診断の種類とその概要ならびに危険性を説明できる。	A(1)	知識
			4.「普通の子」は存在するのか討議することができる。	独自	態度
11	講義	出生をめぐる生命倫理④ 人工妊娠中絶 (選択的中絶、減数手術、女性の自己決定権、胎児の人権)	1.世界ならびに日本における中絶の歴史とその問題点を説明できる。	A(1)	知識
			2.女性の権利(自己決定権)と胎児の権利を概説できる。	独自	知識
12	講義	出生をめぐる生命倫理⑤ 再生医療 (万能細胞と再生医療)	1.ES細胞の概略ならびに倫理的問題について説明できる。	A(1)	知識
			2.iPS細胞の概略ならびに倫理的問題について説明できる。	A(1)	知識
			3.クローン技術の概略とその倫理的問題点を説明できる。	A(1)	知識
			4.再生医療の今後の展開について概説できる。	独自	知識
			5.患者の再生医療へのニーズとその対応について討議することができる。	A(2)	態度
13	講義	インフォームド・コンセント (医者と患者の関係、自己決定権)	1.インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	A(2)	知識
			2.日本におけるインフォームド・コンセントの現状と課題(パターナリズム、自己決定権、セカンドオピニオン)を説明できる。	独自	知識
			3.医療における人間関係の重要性を説明できる。	A(3)	態度
14	講義	医療と社会 (障害者福祉、老人福祉、高齢社会)	1.日本における医療社会の現状ならびに課題を概説できる。	独自	知識
			2.医療従事者として、高齢社会のニーズを把握し、配慮することができる。	A(2)	知識
			3.情報化社会のなかの医療を理解し、その対応策を討議することができる。	A(2)	態度
15	講義	まとめ (生命倫理学の課題と展望)	1.生命倫理学の限界と課題を概説できる。	独自	知識
			2.生命倫理学の展望を概説できる。	独自	知識
			3.生涯学習として生命倫理を把握できる。	A(2)	態度
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(1) A(2) A(3)	講義	講義室	1(0)	配布資料、ビデオ、新聞	90分×15